

映画の小箱

大統領専用機エアフォース・ワンがハイジャックされる。家族への愛のはざまに揺れながら、大統領自らテロリストに立ち向かう。

『エアフォース・ワン』 国家の正義と愛を賭け リーダーは戦士となる

金丸弘美=文
text by Hiromi Kanamaru

主人公は大統領である。アメリカほど、他の国に比べて、政治のリーダーが映画に頻繁に登場するところはない。もつとも今回は、政治的手腕というよりもアクションに力が入っていて、目の前に迫る危機を自らどう切り開いていくかというのが、この物語の中心。それにしても大統領が、もうほとんど007ばりに体を張って、次々に襲ってくるハプニングを突破していくというのは、これまでなかったような気がする。

しかも、この大統領は家族思い。いつも政治的判断の大切さとともに、家族への愛情を大切にしている。まさに、ここにはアメリカのリーダーとしての理想が込められているのだ。政治的に優れ、家族思いで、いざ危機となれば、自らが行動の先頭に立つ。

そして極限の状況で話は展開する。場所は大統領専用機（エアフォース・ワン）。移動する飛行機の中で、事件は起こる。どこにも逃げ場はない。そこからどう脱出するか。話は



©Buena Vista International

すべて、一つの限られた空間にあって、どんな知恵と勇気が生まれるかが、とことんつきつめられる。

話は、モスクワに派遣された特殊部隊の活躍に始まる。ある一人の男が捕まった。

そして、クレムリンの祝賀会が始まる。招かれたアメリカ大統領ジェームズ・マーシャル（ハリソン・フォード）は、高らかに「テロリズムには屈しない」と宣言した。実は、ロシアの政局が不安定なことから、それを狙って、イワン・ラデク将軍（ユルゲン・プロホフ）が、カザフスタンという所に非合法の政権を立てた。彼らはテロリストの集団なのだ。ロシアばかりでなく、世界の脅威となるうとしていた。

ロシア大統領はアメリカ大統領に支援を要請、アメリカ大統領は特殊部隊を派遣した。捕まった男とは、テロリストのリーダー・ラデク将軍その人だったのだ。

宴から大統領専用機に意気揚々と向かう大



©Buena Vista International



©Buena Vista International

統領。専用機には、彼を守るシークレット・サービス、秘書、乗務員などに加えて、大統領の妻グレース（ウエンディ・クルーソン）、娘アリス（リーゼル・マシューズ）の顔もあった。

そして、特別に許可されたロシアのテレビ取材班六名もいた。彼らは、アメリカ大統領を取材するために、同乗することになったのだ。

やがて大統領専用機エアフォース・ワンはロシアを離陸した。専用機は、大統領の執務が行えるように、あらゆる設備が整えてある。飛行機に乗り込んだ瞬間に、次々と大統領への次の仕事待ち受ける。しかしマーシャルは、自分の母校のラグビーの結果が気になって仕方ない。部下にラグビーのビデオを観る十分間の休憩を宣言して、自分の部屋にももった。そして間もなく事件が起こる。

同乗したロシアの放送局のクルーは、実はテロリストの一味だったのだ。大統領の側近

に仲間を持つていた彼らは、まふまふ専用機にテレビ取材班を偽って闖入。機内に常備してある銃器を奪うや、専用機を乗っ取った。彼らの目的はもちろん大統領。彼を人質に、自分たちのリーダーであるラデク將軍を解放させることになった。

テロリストの出現で騒然とする機内で、シークレット・サービスは、大統領を機内の下にある脱出孔に連れていく。そこには専用のカプセルがある。カプセルは発射された。

専用機から大統領が脱出と知ったテロリストは愕然とする。そして、彼らは機内に残った者を入質に、カザフスタンに向かわせ、リーダーの解放を要求する。

テロリストの要求はすぐにホワイトハウスに伝わる。副大統領（グレン・クロウズ）以下、軍の司令部が集結する。このまま、専用機と人質を見捨てるのか、テロリストの要求に応えるか、決断を迫られる。そこに重大な事実が伝わる。脱出用カプセルには、大統領の姿はなかった。大統領マーシャルは、妻と娘と仲間が残る専用機に隠れて残ったのだった。緊急の事態、大統領は自らテロリストに立ち向かうべく、立ち上がる。

次々と起こる難関をいかに乗り越えるか。ここにはアメリカならではの、リーダーシップのありかたど、娯楽的なシチュエーションの典型的な作り方が集約されていて、観るものをグレイと存分に引き込み、ハラハラドキドキを楽しませてくれる。ハリソン・フォードがまさに適役である。

『エアフォース・ワン』

(1997年アメリカ映画) AIR FORCE ONE

監督=ウォルフガング・ペーターゼン

出演=ハリソン・フォード/ゲイリー・オールドマン/グレン・クロウズ/
ウエンディ・クルーソン

11月29日(土)から、日本劇場ほか全国東宝洋画系公開。

配給=ブエナ ビスタ インターナショナル